

中部運輸局鉄道部

平成29年9月29日定例記者懇談会発表

連絡先

中部運輸局 鉄道部

安全指導課 担当：田中、稲垣

TEL 052-952-8031

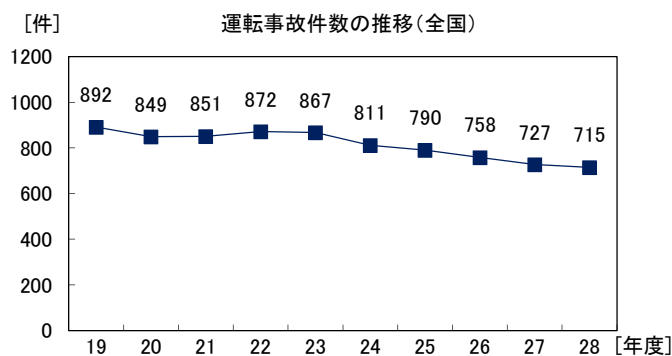
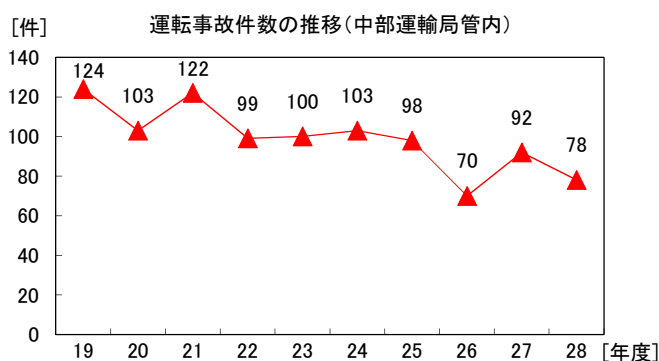
鉄軌道における運転事故等の発生状況について(平成28年度) ～対前年度マイナス14件～

中部運輸局管内5県の鉄軌道事業者から報告のあった事故等について、平成28年度の統計をとりまとめ、発生件数や原因等の傾向について整理しましたのでお知らせします。

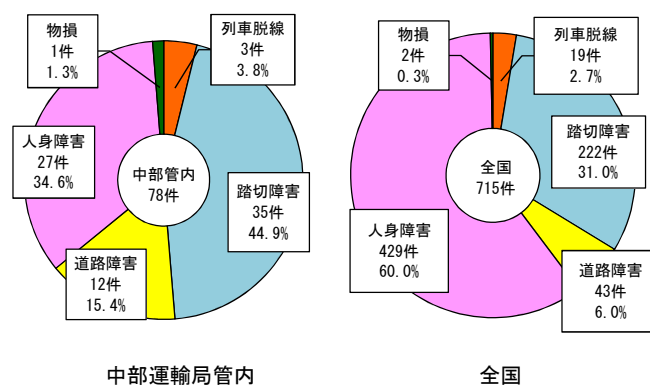
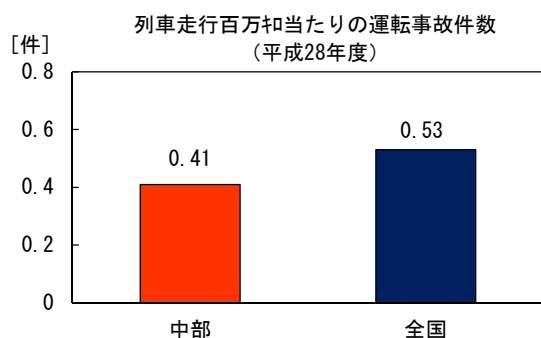
1. 運転事故の発生状況について

中部運輸局管内における平成28年度の運転事故件数は78件であり、対前年度14件減でした。全国的に見ても、鉄軌道の運転事故は長期的に緩やかに減少傾向です。列車走行キロ100万キロ当たりの件数は、全国の0.53件に対し中部運輸局管内は0.41件と少なくなっています。

また、運転事故の内訳としては、人身障害事故と踏切障害事故を合わせて運転事故件数の約8割を占めています。全国においても、人身障害事故と踏切障害事故を合わせて運転事故件数の約9割を占めますが、中部運輸局管内は踏切障害事故の割合が高く、人身障害事故の割合が低い傾向となっています。



運転事故の種類別の件数(平成28年度)



2. 踏切障害事故の発生状況について

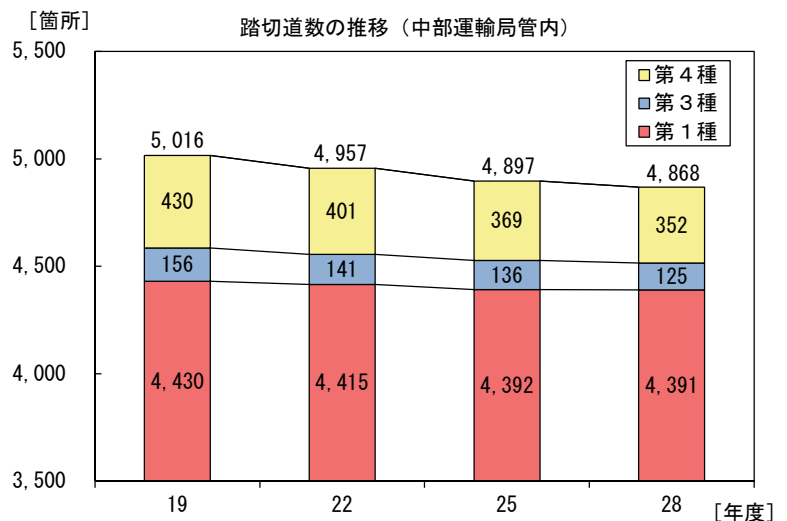
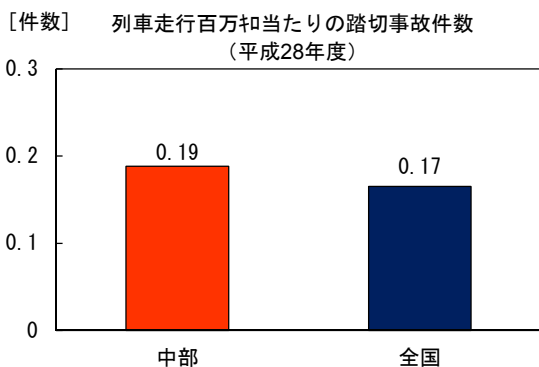
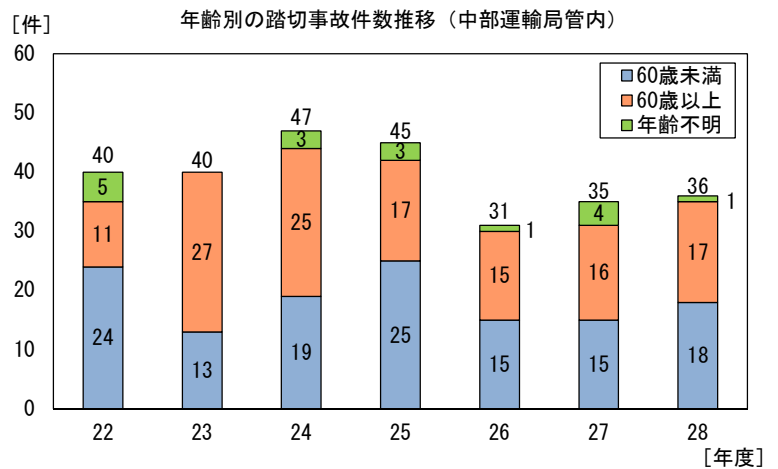
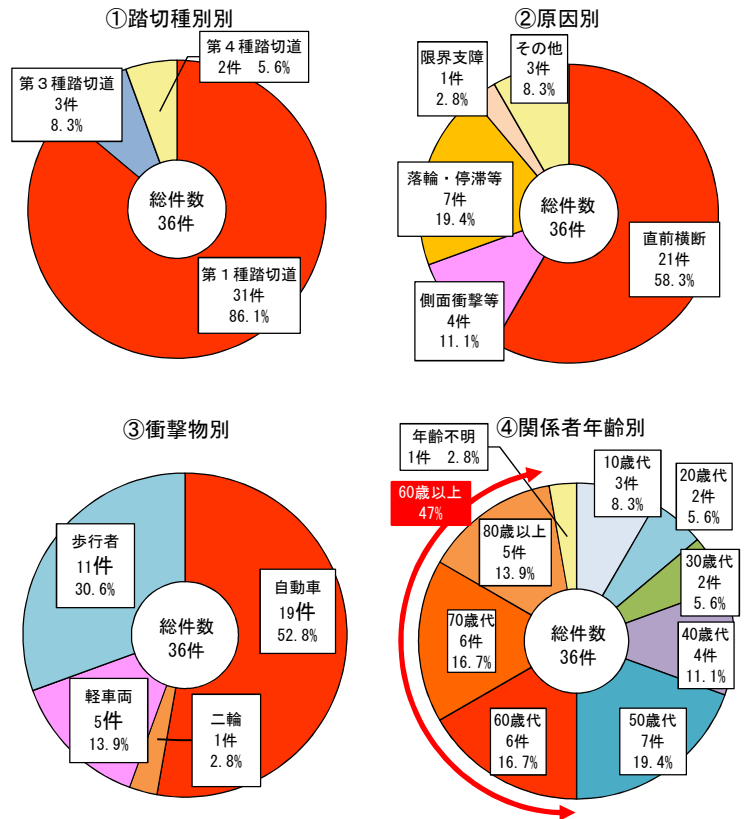
平成28年度に中部運輸局管内で発生した踏切事故件数は36件であり、対前年度1件増でした。列車走行キロ100万キロ当たりの件数は、全国の0.17件に対し中部運輸局管内は0.19件とほぼ同程度の結果となっています。

踏切種別別の内訳は、第1種踏切道（遮断機・警報機の設置されている踏切道）が31件（86%）と最も高い割合となっています。

原因別の内訳は、直前横断21件（58%）、次いで落輪・停滞等（20%）、踏切通行者の原因によるものが大部分となっています。また、踏切事故のうち関係者年齢別の割合は、60歳以上が17件（47%）と約半数を占めています。

踏切事故の防止には、鉄道事業者のみならず道路管理者や警察等の関係者の協力が欠かせないため、これら関係者との連携を図り、今後も立体交差化による踏切道の除却、踏切保安設備や注意看板の設置、カラー舗装等の対策により踏切道の改良を進め、事故防止に取り組んでまいります。また、関

中部運輸局管内における踏切事故の発生状況（平成28年度）



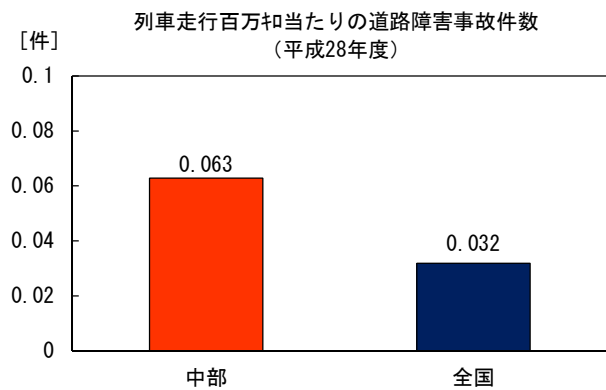
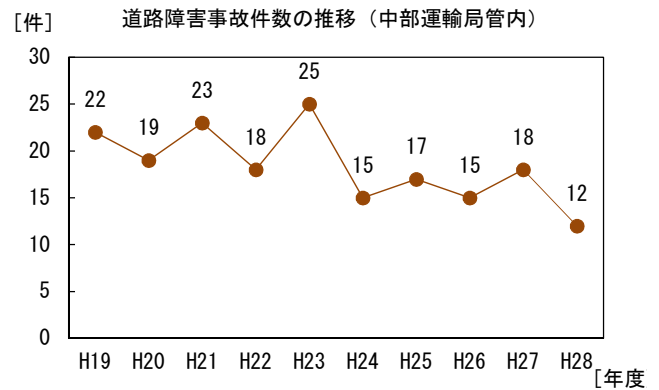
係者の協力を得て実施している踏切事故防止キャンペーン等を通じ、踏切利用者に対して「踏切手前で一旦停止」「警報機が鳴動時には踏切内に立ち入らない」等と呼びかけて注意喚起し、踏切事故の防止を推進してまいります。

3. 道路障害事故の発生状況について

平成28年度に中部運輸局管内で発生した道路障害事故は12件であり、対前年度6件減でした。平成19年度からの発生状況については、平成23年度までほぼ横ばいであったものが、平成24年度から減少傾向であり、平成28年度発生12件は平成19年度から最も少ない事故件数となっています。一方、列車走行キロ100万キロ当たりの件数は、中部運輸局管内は0.063件と、全国の0.032件と比較して多い結果となっています。

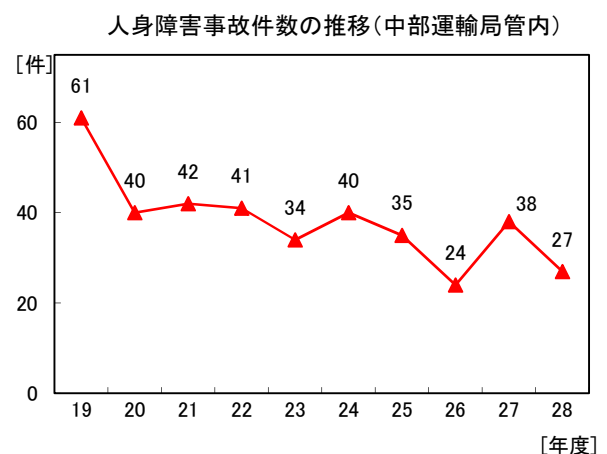
原因は、自動車が直前横断又は割り込みにより軌道敷に侵入して路面電車と接触したものが11件(92%)であり、その他が1件(セグウェイとの接触)となっています。

道路障害事故につきましては、全て路面電車で発生しているため、道路管理者や警察等の関係者との連携により、交通信号機による路面電車と右折車両の分離や、軌道敷の拡幅等の取組みを推進することにより、道路障害事故の防止に取り組んでまいります。



4. 人身障害事故の発生状況について

平成28年度に中部運輸局管内で発生した人身障害事故は27件であり、対前年度11件減でした。列車走行キロ100万キロ当たりの件数は、中部運輸局管内は0.14件と、全国の0.32件と比較して少ない結果となっています。原因別内訳は、公衆等が無断で線路内に立ち入る等して列車等と接触したもの（線路内立入り）は22件(82%)で対前年度2件減、旅客等がプラットホームから転落したことにより列車等と接触したもの（ホームからの転

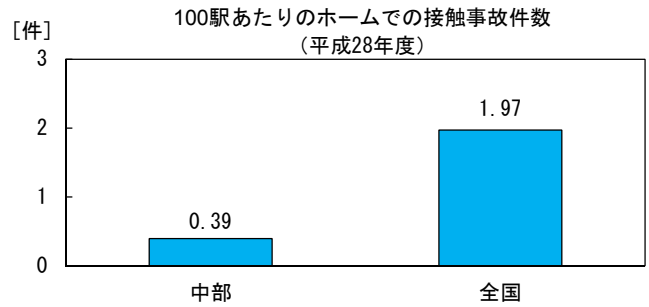
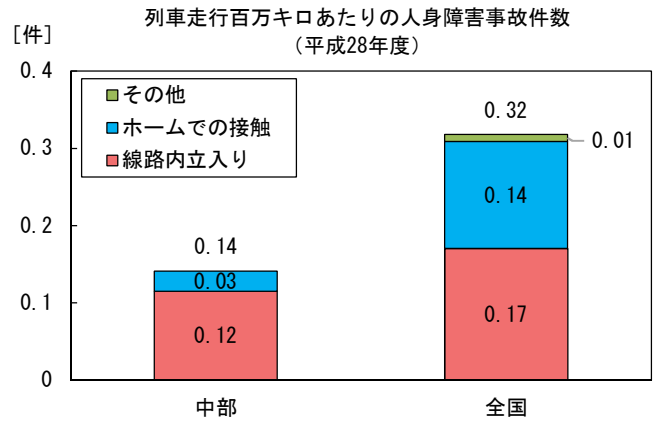


落)及びプラットホーム上で列車等と接触したもの(ホーム上で接触)を合わせた「ホームでの接触」は5件(15%)で対前年度9件減でした。

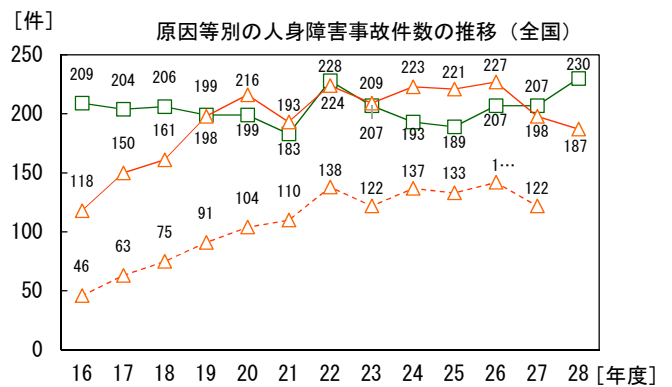
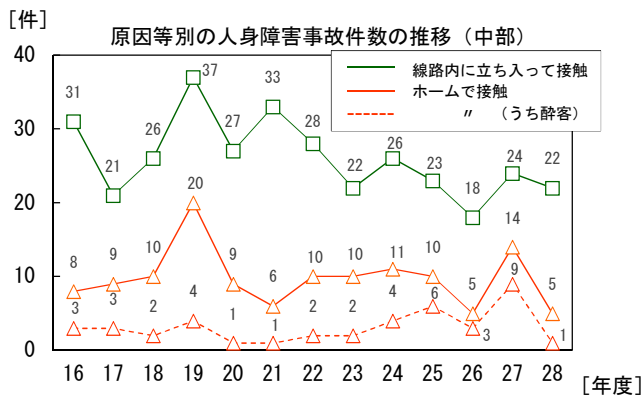
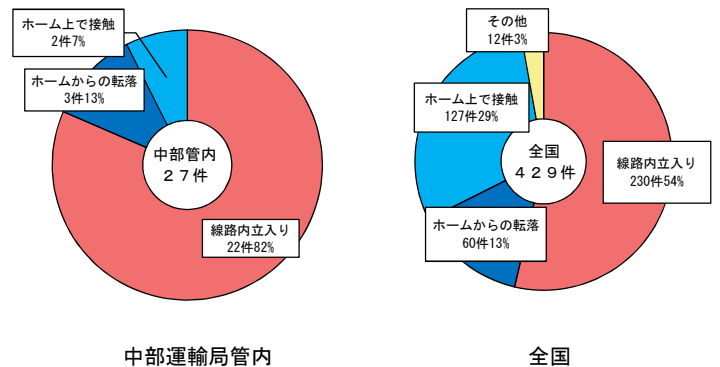
全国の統計では線路内立入りが230件(54%)、ホームでの接触が187件(42%)であり、中部運輸局管内は全国に比べてホームでの接触による事故の割合が低い傾向です。

100駅当たりの件数で比較しても、ホームでの接触事故は全国1.97件に対し中部運輸局管内は0.39件と少ない結果となっています。

引き続き、ホームドアや内方線付き警告ブロック、非常停止押しボタン等のハード対策、および駅員や旅客による声かけ等のソフト対策を推進することにより、人身障害事故の防止に取り組んでまいります。



人身障害事故の原因別件数 (平成28年度)



平成28年度の運転事故等統計は中部運輸局ホームページに掲載しています。

URL: <https://www.tb.mlit.go.jp/chubu/tetudo/jikotoukei.pdf>